

# 行政視察報告書

平成 31年 1月 21日

会 派 名 公明党市議団  
会派代表者 古田みちよ

(参加者: 鈴木 貢 野下達哉 )  
行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	平成 31年 1月 17日(木)
視察時間	14:00~16:00
視 察 先	福岡県福岡市
視察項目	「なみきスクエア」について

②

年月日	平成 31年 1月 18日(金)
視察時間	10:00~12:00
視 察 先	佐賀県鳥栖市
視察項目	教科「日本語」の取り組みについて

# 行政視察報告書

①

年月日	平成 31 年 1 月 17 日 ( 木 )
視察時間	14:00～16:00
視察先	福岡県福岡市
視察項目	「なみきスクエア」について
<b>■目的</b> 駅前複合施設の「なみきスクエア」の施設内容や運営・管理方法について、計画中の江南市の布袋駅東複合公共施設の参考にするため。	
<b>■内容</b> ○施設内容・・市民センター、千早音楽・演劇練習場、東図書館、証明サービスコーナーなどの機能を持つ複合施設。1階の延床面積 5998.16 m <sup>2</sup> 、2階は 4,600 m <sup>2</sup> 、3階と4階で 11,566 m <sup>2</sup> (植栽、庭園) 1階には 752 m <sup>2</sup> の図書館が含まれている。施設の特徴は、音楽や演劇、舞踏の練習会場や 800 人が入る音響効果に力を入れた「なみきホール」があること、自習室や打ち合わせ活用できる 98 席の「なでしこルーム」が整備されている。 ○建設費用と維持管理・・土地・建物で約 110 億円で行政が建設。維持管理は、市民センター、千早音楽・演劇練習場が JTB の指定管理 (5 年、年間 1 億 9,000 万円の指定管理料)、東図書館が紀伊国屋書店と日比野花壇の指定管理、証明サービスコーナーは行政が管理。 ○利用者・・約 2,000 人/日で年間～7 万人の利用者があり、そのうち図書館には約半数の 3 万 5,000 人の来館がある。 ○東図書館・・造園会社の指定管理と図書関係の指定管理のコラボが環境面でもよく考えられていて、至る所に植物、花が配置されてよい雰囲気醸し出している。また、自由に勉強したり、読書ができる席も 70 席ほど配置されていて利用者で満席状態であった。 ○証明サービスコーナー・・コンビニの証明書自動発行機が導入	
<b>■所感</b> JR の操車場の跡地を利用した駅前のアクセスが良い所に建設されている。駐車場は 200 台収容の市営駐車場を利用しているが不足の場合もある。子ども連れの来館者も多くキッズルームも完備している。また、ベーカリーのお店もあり休憩場所にも配慮されている。なでしこルームの座席の増設の要望も多くなっていて多くの市民に親しまれている複合施設であると強く感じた。	

# 行政視察報告書

②

年月日	平成 31年 1月 18日 ( 金 )
視察時間	10:00~12:00
視察先	佐賀県鳥栖市
視察項目	教科「日本語」の取り組みについて
<b>■目的</b> 教科「日本語」は馴染みがない教科で、どのような内容を勉強するか興味がある。そして、江南市での取り組みの可能性についても考える契機にしたい。	
<b>■内容</b> ○教科「日本語」とは・・・①言語活動を通して、表現力・コミュニケーション能力を身につける学習。②日本の古典や詩歌等の有名な文の朗読・暗唱を通して、日本語の響きやリズムを楽しみ、味わう学習。③鳥栖市や佐賀県、日本の伝統文化に親しむ学習。④挨拶の仕方、人と接する時のマナーの大切さを学び、身に着ける学習。この中で、現在取り組んでいる東京都世田谷区、新潟県新発田市にはない鳥栖市独自の特色が③である。 ○導入の動機・・・市長の肝いり政策。また、施設分離型中高一貫教育を進めるうえで、市全体の大きな柱としてするため、平成28年度より4中学校区で実施。 ○時数・・・小学1・2年生20時間(国語・生活科各10時間活用)。3年生～6年生35時間(国語10時間、総合25時間活用)。中学1年生20時間(総合活用)、2年・3年生35時間(総合活用)。 ○教材・・・小学1・2年生用、3・4年生用、5・6年生用、中学生用の市独自の教科「日本語」の教科書を作成。内容は、詩・方言など言語、昔話・俳句・論語など伝統的言語文化、かぞえ歌・落語など伝統文化、あいさつ、日本の衣食住文化の礼儀作法。 ○教員研修・・・平成29年度は5月に実施。教科「日本語」コーディネーター研修会(年間3回実施)	
<b>■所感</b> 平成28年度より全国で3番目に教科「日本語」を導入。教育現場では、道徳の教科化、32年度から小学生高学年の英語の教科化、中学年の外国語活動の実施の中、この教科「日本語」も担任が教えることを考えると、カリキュラム、先生の力量の取り組みなどが非常に重要となるが、その課題も日本人としての教養、言語や文化を継承し新たな創造につなげていく人材育成への情熱を強く感じた。	